

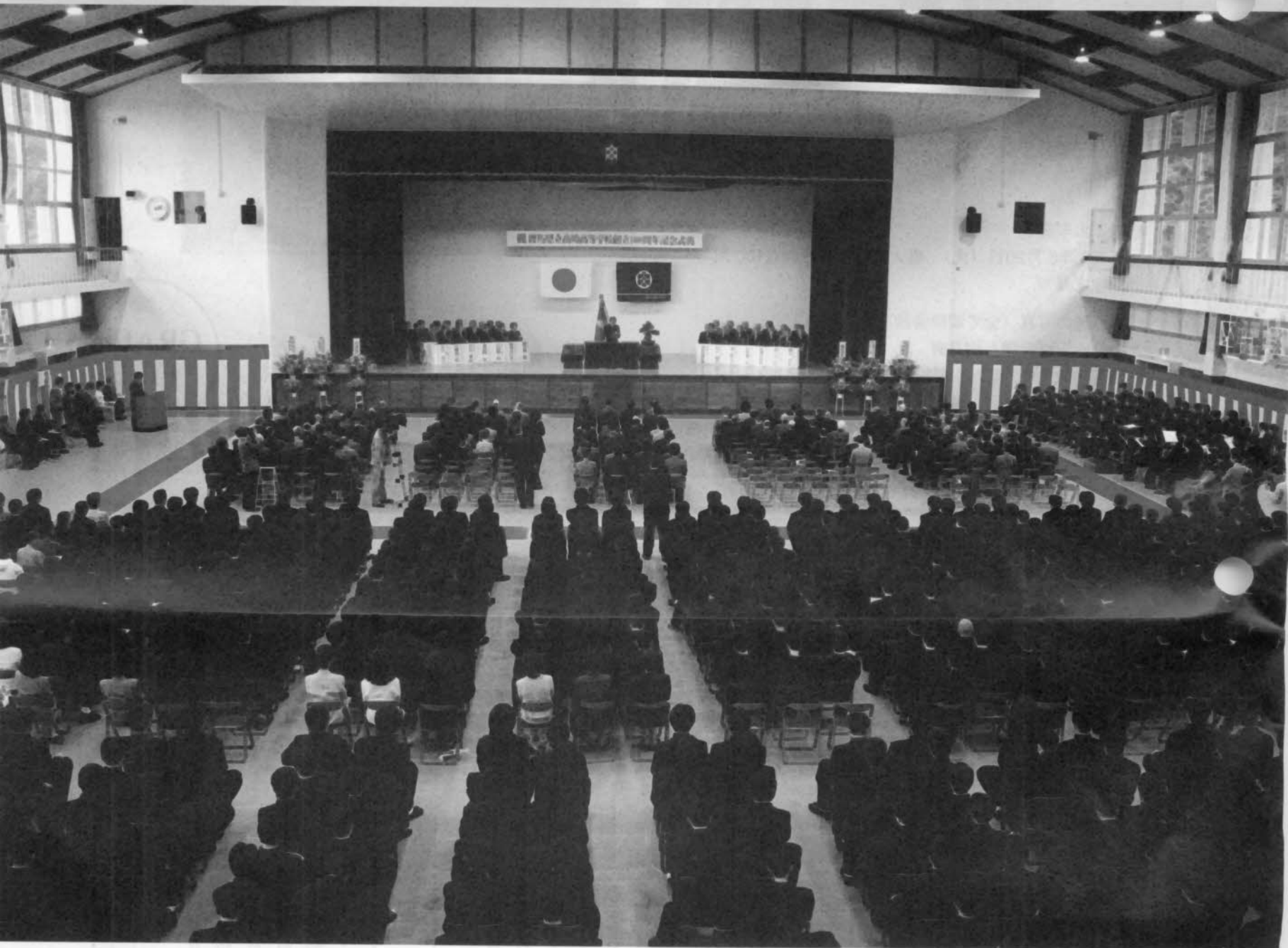
高崎高校同窓会報

第31号 平成9年11月30日

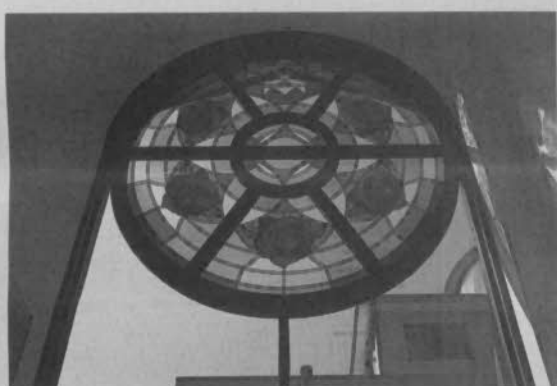
1997

発行所
高崎高校同窓会
〒370
高崎市八千代町
2-4-1
TEL
0273-24-0074

祝 群馬県立高崎高等学校創立100周年記念式典



創立100周年記念特集号



○表紙の写真

平成9年5月20日(火)、盛大に行われた創立100周年記念式典

○表紙裏の写真(全て翠樹会館)

右上=翠樹会館と指月底

右下=教室棟2階から翠樹会館を望む

左上=400人収容、階段状に設計された大ホール

左下=2階レクチャールームからステンドグラスを見る

GRAPH
FILE

写真提供 岩山 猛(49回)

高高同窓会報 No.31 目次

あいさつ	創立100周年式典を終えて	同窓会長 小山 裕一	3
「こあいさつ」		学校長 吉川 功	4
「こあいさつ」		PTA会長 串田 紀之	4
「活」		同窓会副会長 田中 順	5
新任のあいさつ		教頭 井本 嘉宣	5
●表彰・叙勲者紹介			6
●卒業生の作品紹介13		佐藤 晃一	6
論壇			
「科学技術のふもと」		水山 國昭	7
特集●百周年記念事業			
常任委員会 事業報告と御礼		総務委員長 重田 精一	8
事業委員会 事業報告と御礼		事業委員長 須永 孝	9
記念式典写真			10
記念式典写真			11
募金委員会 事業報告と御礼		募金委員長 横田 英一	12
総務委員会 事業報告と御礼		総務委員長 田中 順	13
●刊行案内「高崎高校百年史」			13
百周年記念事業募金寄付金額 種別集計一覧表			14
百周年記念事業募金 総合計推移表			14
百周年事業収支中間報告書		荒木 勉	14
母校だより			
各部の活躍			15
各部の活動			16
翠樹祭・高前定期戦			18
最近の進学状況について			19
人事異動			19
同窓会会計報告			20
翠樹文庫			20
新年総会のご案内			20
会員名簿について			20
維持会費の納入について			20
編集後記		本部幹事会	20



創立百周年式典を終えて

同窓会長 小山 禧一

稲の穂が黄金に輝き、今年も豊作という報せに心も晴れ晴れとする季節となりましたが、同窓諸兄におかれましては相変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、いつものことながら今年も各界各方面におきましての同窓諸兄のご活躍を耳にいたしますことが多いのでありますが、ご同慶の至りでございます。

さらにまた、同窓諸兄も新聞等ですでに御存じのこととは思いますがサッカー部の二十三年ぶりのインターハイ出場に見られますように、近年の高高生の運動・学業両面にわたる活躍には瞠目させられます。この成果の蔭には、申すまでもございませんが、公立の高等学校という制約の中で、精一杯生徒をご指導しておられる先生方の大変なご苦労があらわることと思います。同窓会を代表し、この紙面をお借りいたしました。母校の先生方に厚く感謝申し上げます。次第であります。

さて、平成九年（一九九七）五月二十日（火）、高中・高高創立百周年記念式典を無事に挙行いたしましたことができました。この慶事を、まずもって同窓諸兄にご報告申し上げなければなりません。詳細につきましては特集記事におゆづりいたしますが、改築

されたばかりの体育館に、大勲位菊花大綬章を受章された中曽根康弘大先輩をはじめ大勢のご来賓をお迎えし、生徒職員、PTA、教育後援会、同窓会関係各位とともに厳粛な雰囲気の中にも心のこもった式典を催すことができたのではないかと、ひそかに自負いたしております。

旧講堂跡地にそびえる、ステンドグラスもまぶしい瀟洒な翠樹会館。整備された指月庭。百周年記念事業の中心事業としてすばらしいものができたと、この日來校していただいたすべての方々に喜んでいただけたと思います。

わたしは、この事業を遂行するにあたって物心両面にわたってご支援いただいた、同窓諸先輩をはじめとする大勢の方々の心を思いながら、同窓会を代表いたしまして誠に僭越ながら次のようなご挨拶を申し上げます。

「理想を忘れない進取の気性に富む、高中・高高精神のシンボルとして、生徒諸君には朝夕の登下校の折に、指月庭の木立の向こうに聳える『翠樹会館』を仰いでほしい。そして、この会館にお寄せいただいた大勢の方々の熱き思いをしのび、高中・高高の伝統を二十一世紀へと受け継いでいくことを期待し

ます」と。

また、記念祝賀会は夕刻五時より市内のビューホテルで開催されましたが、記念式典の時に劣らぬ大勢の方々にお集まりいただき、楽しい美酒に酔い、心ゆくまで歓談し、夜の更け行くのも忘れて母校の百周年をお祝いすることができました。

こうして、創立百周年記念事業は残すところ「学校史」の発刊ということになりましたが、これもまた順調に進んでいると伺っております。百年に一度の創立百周年記念事業が、同窓諸兄の暖かいご理解と力強いご支援によって、計画どおり無事に完成を見ようとしておりますことに、言葉では言い尽くせない感動を覚えますと同時に、改めて深く深く感謝申し上げます。

まことに言葉とこのいませませんが、同窓諸兄の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げるとともに、二十一世紀へ向けて本同窓会と母校がますます発展、隆盛致しますことを心よりご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

（美峰酒類(株)取締役社長 42回）



ごあいさつ

学校長 古川 功

会報第三十一号の発刊をお慶び申し上げますと共に、平素母校教育の振興充実に絶大なる御支援を頂戴しておりますことに衷心より御礼申し上げます。

とりわけ本年は創立百周年という記念の年を迎えて、小山会長様はじめ役員会員の皆様あげての御尽瘁により、あの壮麗なる「翠樹会館」建設を嚆矢とする数々の記念イベントをお進めいただき、三百余の御来賓にお越しいただいた記念式典もあのようにはばらしい雰囲気の中で開催できましたこともまことに有難く、感銘の極みと存する次第であります。列席した生徒達も終生忘れ得ぬ感動と榮譽を胸にしたことと存じます。

先輩諸兄の傑出した業績の数々は、時に後輩生徒の目にまぶしく、越え難き積年の課題ともみえるものでありますが、あの折の生徒代表の辞にありましたように、生徒達もそれを自らに自信を呼びおこす源泉ととらえ、専心精進進歩への示唆と受けとめ、常なる錬磨への無言の声と聴きとめて、たくましく明日の自分・明日の高高構築への推力とさせてゆくことと存じます。

特に今年の生徒達は、諸先輩の母校への熱き心に感化されたように例年以上の気魄を発揮し、県総体ではバスケットの優勝を



ごあいさつ

PTA会長 串田 紀之

創立百周年の記念式典が同窓会員の皆様御尽力により無事終了することが出来ましたことを心から厚く感謝申し上げます。事業委員会では立案企画して建設していただいた同窓会館は私達PTAと生徒の自己研鑽の場としてこれから多に利用活用させていただきたいと思っております。

今私達PTA活動も大きく変わろうとしています。二十一世紀に向けて日本社会は国際化、情報化、科学技術の発展、高齢化、少子化、経済構造の変化などに大きく変化しています。また受験競争の過熱化、いじめや不登校、高校生の中退問題など様々な教育上の課題に直面しています。そうした中で私達は一人一人の生徒を大切にしながらその個性を伸長するという基本的な考えに立ち、個々の生徒に必要な資質能力をどの様に育てるかという課題を解決するためにPTAとしての役割は重要であると考えています。

価値観の多様化は高校生の生活や意識に

大きな影響を及ぼしています。そのため高校生は目標の喪失、人間関係の希薄化、進路への不安、いじめの問題の深刻化、情報の氾濫、飲酒・喫煙など多くの問題に直面しています。幸いにして本校とは縁遠い問題であるがPTAとしても勉強していかなくてはならない課題でもあります。

よく子供は親の背中を見て育つと言われる。高崎高校も百年の歴史の中で多くの同窓生を送り出して各方面にわたって活躍中であります。その活躍ぶりを生徒は自分の目で見たりにしています。自然に記憶の中に覚えていきます。まさに親の背中ではないでしょうか。いまさらながら母校の百年の歴史の重さと偉大さを感じないわけにはいきません。

(クシダ工業株)
代表取締役社長 67回)



「活」

同窓会副会長 田中 順

平成九年五月二十日、薔薇の香匂う母校での記念式典が挙行された。記念事業に対する功労者表彰がなかったことは、なんともすっきりし、参加者全員が功労者としての自覚を持ち、晴れ晴れとした面持ちで臨み得たことは、ものの本質を心得た心憎いまでの演出運営であったと思う。

常々後輩の生徒諸君あつての学校であり、学校あつての同窓会であり、古い文言で、最早死語になってしまった醜の御構は、会長でもなく、校長でもない自分について聞かせ、虚仮にされても、耐えて同窓会に参加させていただいていた。生徒諸君の代弁者である学校長の意向を最大限に記念事業に微力ながら生かしてきた積りである。それが故に、私なりに不満が残る。もっといえば裏切られた気持ち強い。

主役であり主人公である生徒諸君が、大人が与えたものを、あまりにも素直に受入れられるよい子であり過ぎたきらいがある。これからの人生にとって、母校の創立百周年に遭遇したことは千載一遇の好機であり、青春の一時期にとつて何にもまして代え難い、掌中の玉のような大事なものである。認識が欠如していると思わざるを得ない。

本来、記念事業の中心におかれ、核とな

るべき諸君が、日常的な受験勉強に追い立てられ、部活、祭、定期戦にだけしか眼を向けることが出来なかったとしたら、折角の百周年は空虚になってしまふ。どうして自らのものとしての位置づけ、気概を持ち、自己発現の場としての創意工夫による百周年参加がなかったことが口惜しい。生徒会は機能しなかったのであらうか。「フレ百年」ということを以前からいわれていて、百周年に対する意識、あるいは希望はなかったのであらうか、疑問ばかりが残る。

現今の風潮で、高校生も微温湯に浸り、問題意識を持ってない程、矮小化され、肝腎なものを抜き去られてしまったのであらうか。高高は自由と進取の気性あふれる学校であると信じている。冒険者の存在は認められる筈である。応援歌、級会歌は共に、当時の生徒達の手になるものである。例えば、百年讃歌、祝典学生歌の発想は生まれなかったのであらうか。期待がいささか多すぎたのであらうか。母校を、後輩を愛しく思う故の苦言を呈した。杞憂であれば僥倖である。こうなれば学業成就に勇猛果敢に挑戦されんこと願うばかりである。意気軒昂たれ。

(日本学校歯科医会理事 51回)



新任のあいさつ

教頭 井本 嘉宣

創立百周年の記念すべき年に、母校高崎高校の教頭に任命され、身にあまる光栄と感激するとともに、責任の重さを痛感しております。

百周年記念式典は、厳肅のうちに、盛大に行われ、生徒達は先輩の培った輝かしい伝統をわがものとして実感することができたに違いありません。私も式典の進行役として、歴史的な行事に参加する機会をえて、緊張感と喜びを生徒と共有することができました。

この機にふりかえってみますと同窓生として、教師として、これまでの実践の方向が間違ひではなかったという思いを強くしました。

それは、喧伝するためではなく、真剣に実現を追求する教育目標としてかけた文武両道、3F精神の実践であります。3F精神の提唱者である田中悦平校長には、遠くを、高くを、ひたすら追求めることを教えられたと思います。目先の成績に一喜一憂するのではなく、将来のための基礎力の養成に努め、そしてなにより大事なことは、人間的成長であること。

前ばかり見て、つますきそうであつた私の高校時代は、過ぎ去つたものでなく今も日々の指導の中に、生きています。

いわばこの高崎高校で、二度目の十六年にもなる長い高校生活を、青春を、送ってきたことにもなります。

文武両道は決して常識的ではないと思います。学習と部活動の両立は、通常は非現実的なものですが、学校を変えていこうとする校長をはじめとする教師のとりくみが、生徒を動かして現実のものになったのだと思います。カット廃止、自習ゼロ、一校時六十五分授業などが実施され、生徒と教師との歩調が合い、信頼関係が強く結ばれ、それまでの基礎部分に上積みができるようになりました。

特に創立百周年の今年は、翠樹会館建設に寄せられた多くの浄財に示されたように、母校を想う熱意が、生徒を動かしたと思われる成果が生れています。

学習面では、三年連続現役合格率八割台を維持しています。例えば東大合格二十名(現役十五名)、早慶現役合格百名は、過去最高の成績です。

部活動は、県総体総合成績四年連続二位で、今年は二位と48点差でした。またインターハイでは、サッカー部は、準々決勝で惜敗したものの全国ベスト8の輝かしい成績を上げました。このように高崎高校は元気であります。

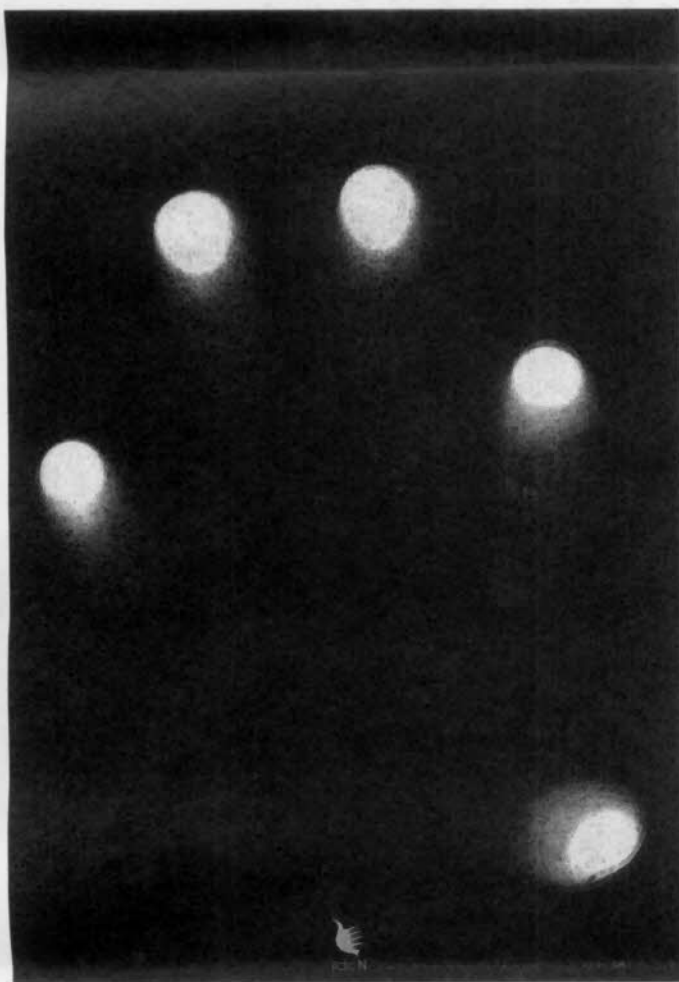
創立百周年記念式典、記念事業に寄せられた同窓の皆さまのお力添えに心から感謝申し上げます。ポスト百年へ向けて確かな一歩をふみ出すために全力を注いでいく決意であります。

(56回)

卒業生の作品紹介 13

I d c Nのポスター

佐藤 晃一



近作のうち、このポスターは自分でもちょっと気に入っているものです。昨年、名古屋に出来た「国際デザインセンター（IdcN）」のイメージポスターで、時代の先端に触れる人間の指の先を、黒地に浮かび上がる5つの白い点として表わしたものです。

スタジオのコピー機の上に指を立ててコピーをとっただけで、アッという間に出来てしまったので、努力の跡というものがないところが特に気に入っています。他人の作品をながめるようで、うれしくなるのです。

今年のメキシコポスタービエンナーレでグランプリをいただいたのはじめ、世界のデザインコンペですでに5本の指にとどく大きな賞を次々に取ってくれて、重ね重ねうれしい作品となりました。（グラフィックデザイナー・62回）

褒章・叙勲者紹介

春の叙勲

●大勲位菊花大綬章

〔元首相〕

中曽根 康弘(78) 第35回

●勲三等旭日中綬章

〔警察功勞・公安行政事務功勞〕

百瀬 涓(71) 第42回

秋の叙勲

●勲五等瑞宝章

〔学校給食功勞〕

深尾 秀夫(72) 第42回

中曽根元首相に
大勲位菊花大綬章



政府が本年四月二十九日付で発表した春の叙勲において、中曽根康弘元首相が大勲位菊花大綬章を受章しました。

一九四七年の初当選以来、通産、運輸などの各大臣を経験し、約五年間もの長きにわたる首相在任中の功勞が大きく評価されました。

菊花大綬章の生存者叙勲は、吉田茂、佐藤栄作両首相に次いで戦後三人目であり、今年二月の衆議院議員在職五十年表彰に続く、二重の喜びとなりました。

「最近人間らしい生活をしていないなあ」

矢作川の堰堤から鉄橋の向うに沈み行く夕日を眺めながら、ふとそんなつぶやきをもらす。今自分が東京をはるか離れた岡崎の地にいることの不思議さと、ついこの住居をこうした広々とした川べりに見つけたという思いが複雑に心の中で交錯している。

忙しすぎるのである。身のまわりを見廻すゆとりがない。東京と岡崎の間を週一回四時間かけ往復するそんな生活が二年近く続いている。研究を生理学研究所で、教育を東京大学で行うという無理が限界に近づいているのを感じ始めた。そんな折自然の色濃く残る矢作川を訪れ、蛇行する川面

論壇

科学技術の
ふるさと



永山 國昭

を眺めた。碓氷と烏の両河川の合流する所を何よりも好んだ少年時代を思い出し、ここに落ち着いたらどうかと願うもう一人の自分の声を聞いた。

メディアからの騒音に悩まされることもなくグタ履きで土ほこりの道を通う牧歌的高校生活の最後の世代に僕は属していた。パンカラは生活の延長の自然体であった時代。おんほろ校舎の中の心熱き男子生徒の群。だだっ広い乗附の原と水甘し山河。どうしても美化してしまう高同の思い出である。

ではおまえは故郷に骨を埋めるつもりだったか

と問われれば、否と答える自分に出くわす。外の空気が吸いたかった。高校時代そうした外の風に当るチャンスが年に一度あった。後々まで続く高同の風を伴った名物校長田中悦平（息子が同級で何だか自分の親父のような存在だった）は年一回著名人による文化講演会を催し、違った世界への窓を僕等にも開いてくれたのである。そうした人達に力を貸してくれたのが高同の良きパトリック故井上房一郎氏であった。一年の時は高同出身の船戸川善哉氏で、喜々として研究を語る二工学者に強烈な印象を持った。あのような研究生活ならしてみたいと思わせたのである。二年の時は当時ラジオの人気番組「百万人の英会話」の講師

松本孝氏であった。高崎中学を中途で転校したがこの地を良く覚えていて先生方の中に友人がいた。留学を含む修行時代の話に笑いこぼれたのを思い出す。三年の時はたしか湯川秀樹博士だったように思う。すでに老境に達していたこの天才の話はしかし僕等をあまり感激させなかった。科学者より哲学者の風貌に違和感を覚え、哲学的内容に高校生はついていけないかった。当時博士は朝日新聞に自伝「旅人」を連載中だったように思う。

かつて碓氷川の土手からささるものなく木造の校舎に続いた乗附の原はすでになく、高同にいたる道は新しい街並に置き替わっていた。三十年前の感激の地、講演会の講堂もすでになく、新時代の象徴聖徳会館に脱皮しようとしている。そして今日の落成記念に、攻守所を変え、かつて感激した生徒が三十年後の演壇に立とうとしている。昨年の夏、級友の羽鳥同窓会役員からの招待だった。百周年記念事業の眼玉の会館設立。そのこけら落とし。様変わりした校舎に時代を感じ、ふと世代の断絶の言葉が横切る。果して今の生徒とつながる糸はあるのか。校長室にて先生方との談笑の折、窓

の外に目をやる。不易のものそれはやはり自然か。故井上房一郎氏の遺産バラ園の昔姿をわらぬたずまいがそこにあつた。

「自然に学ぶ二十一世紀の技術」(本年一月二十五日)という私の講演は自分で自分を作る生き物の体作りに焦点をあてた。自然には全くスケールの異なる二つの自然がある。一つは私達を囲む環境としての自然。大きな自然、そしてもう一つは私達の体の中に展開する小さな自然。この小さな自然のモノ作りが講演の主題だった。そして生物のような美と機能を兼ねそなえた体作りの技術の成り立ちを考え、そうしたエネルギー消費の少ない慎ましい技術をどのように人間の技術に取り入れるかを具体例をもつて示した。

話はかつて高同を取り囲んでいた豊かな自然から始まった。しかし、三十年前の講演者と私との間には大きな溝があった。手離しの科学技術礼賛はすでに終り、技術拡張が限界にきているという認識である。その限界を最も敏感に感じている若い世代に嘘はつけない。自然と文明の折り合いをどうつけるかという困難な問いに私は正直に答えようとした。果して三十年前に受けたと等しい感動を生徒たちに与えられたか。無論それは三十年後の彼等の誰かが私の問題提起への解答として再びこの壇上に立つ事で証明されるべきものである。

私は同じテーマを引つ下げ何回郷里で講演したろうか。二年前の高崎工業を皮切りに子供達の前で同じテーマを語って来た。事の最初は理系離れを危惧した科学技術庁の「ふるさと出前レクチャ」がきっかけだったが、身近に語ること、肌で熱を伝えることの大事さを感じた子供達の目をみていて悟ったのである。鬼石の中学、高女、豊岡小学校、群馬高専といずれも一時間を越えるこうした科学の講演によくついて来てくれたと感じている。特に話だけでなく、ビデオ、実験等を示す子供達の眼は輝く。

豊かな自然と豊かな人間の生活が両立可能なのか。人間の幸せは他の動物の犠牲の上に成り立つ

ているのか。時代の問いかけは特に若者に重くのしかかる。しかし暗くなるだけでなく明るさも見えるのだということをお話だけでなく具体物と日常の延長上の科学する心の中から伝えていく。これだけが若い人を引きつける知のエンターテインメントだと思ふ。メディア世代に五感の全てに訴える多彩な演出で科学の現場のパワーを示し、かつ科学が最も良質な人間の知的営為で、現代の難問すらも解き得る力を持っていることを示すこと。問題を解くという行為、しかも誰でも納得できる偏見を脱した事実の形で行うことが科学的な点だ。

自然から出発した自然科学は科学技術という新たな装いで大成功を収めて来た。しかし、人工に走りすぎた科学技術は再び自然の中から学ぶべきものを見出しつつある。それを私のテーマは示している。

落成記念講演会から丁度一ヶ月後私は英国国立研究所の円形講堂の中央に立っていた。フアラデーのクリスマス講演(ローソクの科学)以来百八十年続く伝統の「金曜講話」で私はまたも同じテーマで語ろうとしている。しかもいくつもの実験演説を含む特殊な講演形式の中で。聴衆はイブニングジャケットとドレスを着用した英国の紳士淑女。私もネクタイにジャケットのいでたち(写真である。その格式にともしれば圧倒されながら、それでも私は心を奮い立たせ高同で行ったものと同じテーマを語った。郷里の中小高生に聞かせたものと同じものをこの科学の発祥の地の人々に聞かせたかった。ただその思いで大役を引受けたのである。

自然美に敏感に反応する感性と文化を持つ私達はいずれ科学、技術、芸術の全てを再び自然から学ぶ時代を迎える。その時はじめて私達はモルフオ様のようになつて美と高貴さを兼ねそなえた新しい技術を手にするだろう。それは矢作川の自然に安心を探そうとした私の人間的行為の帰着点でもある。

(岡崎国立共同研究機構・生理学研究所教授 63回)

百周年記念事業

特集

常任委員会 事業報告と御礼

総括委員長 重田 精一



母校創立百周年を迎えるにあたり、学校当局と同窓会との緊密な連携のもとに進められてきた作業にあわせて教育後援会、PTAの協力を求め、総力を結集して事業遂行の完遂を期し、常任委員会を設置した。

本委員会は、「翠樹会館」の起工式が行われた平成八年五月二十四日に第一回を開催した。

委員会の任務として、百周年記念事業推進のための連絡調整などを主とし、とくに記念式典、祝賀会などの企画運営について具体案の作成についての検討を行うこととした。

以来、委員会は五回の委員会の議を経て、記念式典、祝賀会の細目を決定し、学校当局の詳細な役割分担表に基づいて、同窓会役員、教育後援会役員、PTA役員、それぞれの役割を定め、最終委員会の五月十二日には、PTA本部役員、学年役員、地区役員を含め六十有余名のPTA女性役員方の参加を頂き、式典当日の受付接待係、記念品係、さらに、式典における司会進行係、祝賀会における受付接待係、司会進行係などに従事して頂いた。前述した総力をあげて、事業遂行に当たることの具体的展開であり、斬新な企画であったと思われる。

記念講演会

「人類の哲学」 梅原猛先生

国際日本文化研究センター顧問の梅原猛先生による講演会を音楽センターにて開催、人類の未来を救う哲学について語られた。

自然と人間を対立するものとして考え、それを征服することで文明を進歩させてきた西洋哲学は、深刻な環境破壊をもたらし、人類を窮地に陥れている。自然と人間の調和の姿は、古代中国の長江流域の稲作農業の中にある。人類の未来を救う哲学は、自然と人間の調和をもたらし哲学である、と説かれ、「井上房一郎翁のように九十五歳まで生きて、人類の哲学を完成したい。」と語られたことが印象的であった。

創立百周年記念式典

記念式典は、五月二十日午後二時より、体育館で行われ、式次第ののっとり肅々と進められた。

古川功校長は、百年の歩みを振り返り先輩たちの築いた伝統に対する謝意の大切さを強調するとともに、新しい決意で今後に進むことを強調された。

また、小山藩一記念事業実行委員会会長は、同窓会員始め関係者の絶大な協力支援に感謝し、これに報ゆるべき今後の発展を要望された。

記念式典次第

司会：全日制教頭 井本 嘉宣

PTA副会長 小林 和子

(通信制教頭 高橋 潤)

○前奏

1 開式の辞 高崎高等学校

教育後援会会長 児玉 貴様

- 2 国歌斉唱
- 3 校歌斉唱
- 4 物故者慰霊黙祷
- 5 校長式辞
- 6 挨拶

(1) 群馬県教育委員会委員長

横田 英一様

(2) 創立百周年記念事業実行委員会会長

小山 藩一様

7 事業報告

創立百周年記念事業実行委員会

総括委員長 重田 精一様

8 来賓祝辞

(1) 同窓会議員代表 元内閣総理大臣 衆議院議員 中曾根康弘様

(2) 同窓会議員代表 群馬県議会議員 松澤 睦様

(3) 市町村長代表

高崎市長 松浦 幸雄様

(4) 群馬県高等学校長協会代表

会長(前高崎高等学校長) 榎井 哲様

9 来賓紹介

10 生徒代表謝辞

高崎高等学校生徒会会長 木村 雅文君

11 翠樹斉唱

12 閉式の辞

高崎高等学校PTA会長

加藤 勝一様

○後奏

来賓の中曾根康弘元内閣総理大臣は、「百年を節目として、二百年に向けて前進することになった今日、各自の人生を最高の芸術品に、仕上げるよう覚悟を持ってほしい」と祝辞を述べられた。

来賓二百名職員生徒千百名出席のもと厳粛な雰囲気の中に午後三時五分無事終了した。

記念祝賀会

高崎市内「高崎ビューホテル」にて午後五時より開かれ、参加者約四百名。百周年記念として参加者の喜びは会場を一杯にうずめ盛会であった。

学校当局、教育後援会、PTA、同窓会四者の協力の中で無事終了したことは本当に感謝にたえぬところであり、心から御礼申し上げます。

群馬県立高崎中学校の碑

本校は、明治三十年四月創立、群馬県尋常中学校群馬分校として高崎市赤坂町長松寺に仮校舎を設置、明治三十一年上和田町に本校舎落成、明治三十三年四月群馬県高崎中学校と称し、以来昭和十三年十二月、上和田町より現在の乗附の地に移転した。上和田町の校舎は現在高崎市立第一中学校である。

創立百周年記念事業の一環として旧制高崎中学校跡の碑の建立を企画し、高崎市教育委員会、高崎市立第一中学校のご好意によりこれが実現をみた。

高崎市立第一中学校の校門を入り右側の地に建碑。平成九年三月三十日、除幕式を行った。

小山藩一百周年記念事業実行委員会会長、古川功校長始め同窓会、学校関係者、生徒会、応援団員の出席のもとに開催された。

碑面は本校に建立されている応援歌翠樹の碑の碑面、中曾根信雄君(三十九回)の筆になるデザインを再び使用させて頂き、「名も高崎の西北に獅子とうそぶく中学の」という文言を刻んだ。

本校校庭と烏川をはさんで上和田跡地に、翠樹の碑が相対し我々を、高崎生徒を見守ってくれることとなった。

(重田医院院長 38回)

特集

百周年記念事業

事業委員会

事業報告と御礼

事業委員長 須永 孝



平成九年五月二十日(火)の創立百周年記念式典は、厳肅な雰囲気の中にも心暖かいものがあふれていて、すばらしいものだったといまも懐かしく思い出されます。当日はやや不安な天候でしたが、雨降って地固まると申します、緑に映える翠樹会館は美しく、創立百周年の記念事業として申し分のないものができたと思わずかしながら自画自賛させていたできました。

思い起こせば平成二年の秋に事業委員会が発足いたしました。学校側の要望をお伺いし、会長はじめ同窓諸先輩のご意見ご指導を頂戴しながら、百周年の記念事業を計画立案してまいりました。そして、創立百周年を飾るにふさわしい事業として、同窓会館を建設することが決まりましたが、校長も金井秀一先生・堀口康平先生、そして現在の古川功先生と三代にわたり、そのつど、会館の設計内容に新しい要望が加えられました。事業委員会と致しましては、学校の使い勝手の良さを第一に考えて、設計変更を繰り返して、ようやく現在のホールに落ち着きました。前回も設計図を書きなおさね

ばならなかった井上設計のスタッフには、この場をお借りいたしましたして御礼を申し上げます。

平成八年五月二十四日(金)

午前十一時より起工式

主 石川正明(護国神社・67回)

設計業者 井上設計

施工業者 井上工業

平成九年一月十四日(火)

午前十一時より落成式

主 石川正明(護国神社・67回)

こうして、三代にわたる校長先生のご意見をはじめと致しまして、大勢の方々の貴重なお知恵を拝借して完成したこの「翠樹会館」は、県内の他の高校には例を見ないすぐれた文化施設だと胸を張って答えることができます。四百人を収容する冷暖房完備のホール。階段状のフロアーに座席は固定式で、簡便なテーブルもついております。ステージはかなり広く取っておりますので、ちょっとした演奏会にも対応できます。しかも、フロアーからステージの高さはわずか七十センチメートルしかありませんので、客席とステージとが一体感で結ばれやすい

と思います。講演会や演奏会などを始めといたしまして、これから母校高崎高校で学ぶ生徒やご父兄・同窓会員等に大いに利用されるでしょうが、またさらに生涯学習の見地から地域社会の文化活動にも役立てられることが期待されております。

一階には他に同窓会資料室も設けられており、閉架式の書庫には、二百周年に向けて母校の貴重な資料が、整理保存されていくことになります。

二階には「レクチャールーム」があり、冷暖房完備の百名収容可能な自習・講義室になっております。またこの会館のシンボルであるステンドグラスが美しい光を教室内に投げ掛けております。

さて「指月庭」につきましては、東京で造園設計にご活躍中の濱名光彦氏(55回)の指導助言をいただき「翠樹会館」の洒落た外観にふさわしい庭を作っていただきます。

壁を背に、広い芝生と大きな樺の姿がすっきりとしていてなかなか評判だと伺っております。

このように、事業委員会として

「翠樹会館」の設計・建築を推進してまいりました。この会館が、高崎高校の新しいシンボルとして、ここで学ぶ後輩生徒諸君に大切にされ、また大いに利用されることを祈念申し上げて、事業委員会のご報告とさせていただきます。

(梅玉堂(有) 社長・47回)



高崎中学校の碑 平成9年3月30日除幕
(現高崎市立第一中学校内)



梅原 猛先生(記念講演会・群馬音楽センター)

創立100周年 記念式典



小山会長 挨拶



受付風景



校舎鳥瞰図



第26代古川校長 式辞



生徒代表 謝辞



正門付近から指月庭を見る

100
ANNIVERSARY

特

100 ANNIVERSARY

集

百周年記念事業

群馬県立高崎高校



記念式典会場 体育館



祝賀会（軍樹斉唱）



祝賀会（乾杯）



中曾根元首相 祝辞

百周年記念事業

特集

募金委員会

事業報告と御礼

募金委員長 横田 英一



母校創立百周年記念式典が、五月二

十日厳粛にしかも暖かな雰囲気の中で盛
会裡に挙行されました。誠に御同慶の至
りでございます。おめでとうございます。

百周年を迎えるにあたり、将来に飛
翔する高生に同窓会として何を贈れる
かを議論し、旧講堂を建て替えることを
記念事業の大きな柱とすることを決定
し、これの財源は同窓会を中心にした募
金活動で賄うことが決められました。同
窓の全員で事を成就することが小山会長
の方針として打ち出されさつそく組織作
りを行ったのが五年ほど前だったと記憶
しています。各期の常任理事、理事より
推薦をいただいた総勢六八八名という大
勢の募金委員のお名前を頂戴いたしまし
た。その大所帯の委員長を仰せつかり、
これはたいへんなことになったというの
が、当時の私の偽らざる心境でありまし
た。折しも日本経済はキャッチアップ時
代は終わり、バブル崩壊と同時に大変な
不況に見舞われ、先行き不透明な景氣の
中での厳しい経営環境に変わりつつあり

ました。

しかし、先輩たちのご苦勞で立派な
輝かしい伝統を築いてきた母校を、さら
に充実発展させる一翼を担う誇りと、心
豊かな同窓諸兄の力強いご支援をいただ
き目標達成までは頑張らなくては、と覚
悟したものでした。

平成六年十月、事業も確定し、募金
目標額も二億二千万円と決められまし
た。各期の委員の方々と度重なる会合を
開き、英知をいただきながら明快な目標
を出すことができました。

各期の目標額

四〇〇四六期	二五〇万円
四七・八〇六八期	三〇〇万円
六九〇八〇期	二五〇万円

※それ以外の期は事務局が担当する。

こうして平成七年一月から平成八年
十二月までの二年間にわたる募金活動が
始まりました。しかし、ご承知のように
その後の大不況で企業からの篤志寄付が

思うに任せなくなりました。やむなく国
税局に一年間の延長を願い出て、平成九
年十二月まで延長を許可していただきま
した。こうしたなか、県内の他の高校
(兄弟校)の百周年記念事業募金が頓挫
していくという話が伝わってきたり致し
まして、正直な所不安になったこともこ
ざいました。

このような時、たいへん有り難かつ
たことは、貴重なお時間を割いて小山会
長と古川校長のお二方が、揃って県内の
企業を回り篤志寄付のお願いに何度も何
度も出向いてくださり、京浜地区の同窓
会の集まりにもご出席いただき募金のお
願いをして下さったことです。

さらにまた、各期の同窓会役員・募
金委員や校内幹事の皆様のご尽力にも厚
く感謝申し上げなければなりません。事
務局に作っていただいた「各期の募金状
況分析」は第十一号を数えますが、それ
を拝見いたしますと、それぞれの期が目
標額を超えようと真剣に取り組んでおら
れる様子がひしひしと伝わって参りまし
て、母校にお寄せくださる諸先輩の熱さ
思いにいまさらながら頭が下がります。

また、募金委員のおられない三九期
以前と八一期以降の皆様につきまして
は、母校高崎高校で教鞭を執っておられ
る校内幹事の先生が担当してくださり、

五千通を超える募金依頼書を四回にわた
って発送していただきました。

今、事務局が用意してくれた「百周
年記念事業募金総合推移表」をご覧に
なつていただければお分かりのように、
平成九年十一月三十日現在の募金総合計
の七五%以上が同窓生関係であります。
八十周年の時、一億円の募金を集めまし
たが、その内訳を拝見いたしますと篤志、
PTA関係の寄付で八十%を超えており
ます。今回の募金が如何に同窓生一人一
人の母校を思う熱き心に支えられている
か一目瞭然の数字でございます。

この同窓会の力は申すまでもなく、
日頃からの地道な同窓会活動が、地域社
会や同窓生のなかに深く浸透し、理解さ
れ支持されているからの何物でもありま
せん。このようなすばらしい同窓会を築
いてこられた歴代の会長をはじめとする
役員の皆様、改めてこの紙面をお借り
して厚く御礼申し上げる次第でありま
す。

このようにして、創立百周年記念事
業の募金活動が大成のうちに終了でき
ますことに満腔の感謝の意を表して報告
とさせていただきます。

(群馬トヨタ自動車(株))

代表取締役社長 50回)

特集

百周年記念事業

総務委員会

事業報告と御礼

総務委員長 田中順



会報三十号に高崎高校百年史—高中から高高へ、百年の歩み—を副題として貴重な紙面、半頁を刊行案内として概略百年史編纂のことにつき報告した。

編年体としての上巻通史に、同窓各位から貴重にして素晴らしい資料を提供していただいた。この紙面を借りて、貴重な示唆と資料をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げる。

上下両巻とも、多忙な校務の傍ら、箕輪・植原両編集長の昼夜兼行の精力的な働きにより、どうにか目途もついていた。御両人に感謝申し上げたい。

下巻は、学校史としてはユニークな発想のもと、高中・高高的群像を描き出し、上巻通史の行間に、血肉をつけ、当時の生徒達の生のいきさまが如実に表現されている。諸般の事情により、当初の計画変更を余儀なくされた。総務委員会で熱心な論議の結果、恩師をも含めて四十五人の人物を取り上げさせていたいただき伝体としての人物史とした。

恩師は、岩沢正作、猪狩梅三郎、沢

柳政太郎、田中悦平、内藤田男、村上成之、岸米造の七氏である。

同窓生では、期別順に、篠原誠一郎、大手拓次、篠原秀吉、清水善造、岸福治、土屋文明、佐々木四郎、岸浩、橋外男、田中徳次郎、蝦山政道、住谷啓三郎、堀川寛一、吉田栄次郎、井上房一郎、萩原恭平、小島軍造、小山長四郎、高間繁、橋本富寿、福田赴夫、南雲今朝雄、大沢清、山口薫、狩野近雄、分部順治、西嶋重忠、宮下秀洸、田中鎮雄、岡本正己、丸茂重貞、中曾根康弘、三輪八郎、阿久沢亀夫、勝山功、橋本一明、笹木和雄、金鶴泳の三十八氏の計四十五人である。

申し訳ないが、紙面に限りがあるので取り上げさせていただけなかった各界各層のわが高高が誇る人物像は、綺羅星のごとくおられるので、巻末に、人物事典的に約三百名を超える方々に登場願った。各期で推薦していただいた方と、設定基準に合致した方々である。主たる方々を例示してみよう。

羽鳥千尋(4) 中曾根宇内(9) 富田俊

- 一(11) 田中金司、梁瀬喜作(12) 田島武夫、羽鳥久雄(16) 武藤運十郎(18) 柳沢米吉(20) 浜名一雄(21) 蝦山芳郎(25) 市川清、千葉照源(25) 山口隆男(26) 亀田東伍(27) 小島弘一(28) 原一雄(29) 羽鳥治良松、松本亨(30) 柴山大五郎(32) 井上卯一郎(33) 大塚雅彦、重田精一、横山巖(38) 大河原太一郎(39) 市川喜一、田中健夫(40) 小山禧一(42) 新井昌一(43) 山本富雄(45) 岸曉、関根望、中村清(46) 新井章、児玉貴、松沢睦(47) 永井憲一、橋爪和夫(49) 亀田浩、須藤良太郎、竹内克好(50) 吉田恭三(51) 岩崎允彦(52) 田島高志、本間三郎、吉田治雄(53) 井田進也(56) 上野公成、小林啓治、平田正(57) 反町勝夫(58) 池田真一、高橋秀夫(59) 有田喜二(60) 高木賢、塚田佳男、土方邦夫(61) 飯野健郎、植木紘二、萩田繁、佐藤晃一(62) 永山国昭(63) 富岡賢治(64) 安藤明、豊田健夫(66) 佐藤良明(69) 武藤賢一郎(70) 下村博文(72) 吉本明弘(78) (括弧内は卒業期)。

二万有余の同窓生からの取捨選択であり、編集長の並々ならぬ苦渋の所産である。宿命として洩れのあることを恐れずに、手はじめの試金石として上梓するが、手落ちがあれば、全て総務委員長の

責任である。次の人物誌発行にいたるまでの一過程として、ご寛容をいただきたい。(田中齒科医院院長 51回)

「高崎高校百年史」
平成10年3月31日
発刊

■本書の体裁

書名 「高崎高校百年史」
上巻 通年編 本文約1000頁
下巻 人物史編 本文約550頁
体裁 B5判、上製本、並箱付(上下巻セット)、表紙布クロス、箔押し(平・背)
頒布価格 5,000円(送料込み)

■申込み方法

同封の振込用紙(加入者名=高崎高校百年史編纂委員会)にて代金を振り込んでお申込み下さい。維持会費納入用の振込用紙(加入者名=群馬県立高崎高校同窓会)とお間違いにならぬように御注意下さい。

100周年記念事業募金

寄付金額種別集計一覧表 (平成9年11月30日現在)

期	金額(円)	件数
全 日 制		
第9期	20,000	1
第17期	110,000	2
第20期	20,000	2
第22期	20,000	2
第23期	70,000	2
第24期	120,000	6
第25期	70,000	4
第26期	180,000	9
第27期	90,000	6
第28期	1,243,000	16
第29期	3,620,000	18
第30期	1,170,000	23
第31期	660,000	27
第32期	740,000	41
第33期	665,000	30
第34期	610,000	45
第35期	890,000	35
第36期	530,000	35
第37期	400,000	37
第38期	2,990,000	49
第39期	523,900	39
第40期	650,000	39
第41期	2,660,000	98
第42期	12,992,000	102
第43期	2,090,000	46
第44期	2,545,000	85
第45期	2,750,000	77
第46期	2,640,000	98
第47期	10,450,000	55
第48期	3,320,000	146
第49期	9,560,000	167
第50期	4,850,000	147
第51期	7,133,000	125
第52期	3,250,000	146
第53期	5,950,000	114
第54期	5,008,000	128
第55期	9,150,000	155
第56期	3,490,000	175
第57期	3,450,000	144
第58期	3,340,000	115
第59期	5,300,000	123
第60期	4,144,500	193
第61期	3,260,000	98
第62期	3,300,000	194
第63期	3,080,000	91
第64期	3,060,000	163
第65期	3,040,000	220
第66期	3,162,000	244
第67期	3,010,000	178
第68期	1,430,000	82
第69期	2,850,000	184
第70期	1,490,000	102
第71期	1,440,000	113
第72期	1,040,000	66
第73期	1,205,000	102
第74期	803,470	70
第75期	660,000	61
第76期	1,070,000	106
第77期	2,523,000	152
第78期	1,440,000	102
第79期	420,000	39
第80期	1,120,000	61
第81期	1,070,000	90
第82期	550,000	51
第83期	682,000	63
第84期	1,051,000	85
第85期	535,000	50
第86期	741,000	70
第87期	805,000	78
第88期	1,025,000	95
第89期	910,000	88
第90期	1,130,000	112
第91期	1,003,000	93
第92期	972,000	95
第93期	1,704,500	156
第94期	1,522,000	147
第95期	1,040,000	100
計	173,608,370	6,708
通 信 制	490,000	45
定 時 制	180,000	18
篤志寄付(法人等)	51,900,000	50
旧 職 員	250,000	8
P T A	1,564,000	114
現 職 員	1,160,000	44
教育後援会	320,000	9
合 計	229,472,370	6,996

100周年記念事業募金 総合計推移表

年月日	金額(円)	件数	同窓生関係(円)	備 考
				第1回募金依頼 H7/3/20
H7/6/10	11,383,900	650	11,193,900	
9/16	17,937,900	1,010	17,837,900	
11/8	28,377,900	1,188	28,257,900	
H8/1/24	41,082,900	1,711	40,772,900	
4/23	73,352,900	2,451	67,787,900	
6/17	83,332,900	2,595	70,737,900	
9/3	100,722,900	3,065	82,417,900	
10/9	115,432,900	3,448	94,847,900	
11/12	137,255,900	3,761	109,722,900	第2回募金依頼 H8/10/30
12/25	172,828,400	4,583	124,764,400	
H9/1/29	181,376,400	5,008	131,047,400	第3回募金依頼 H9/1/30
2/13	187,446,400	5,305	135,647,400	
3/27	197,889,400	5,826	145,987,400	第4回募金依頼 H9/3/31
4/17	206,852,870	6,230	150,618,870	
5/21	222,709,870	6,740	167,245,870	
6/17	224,764,870	6,894	169,300,870	
9/16	229,042,370	6,988	173,178,370	
11/30	229,472,370	6,996	174,278,370	

創立100周年記念事業収支中間報告書 平成9年11月30日現在

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
寄 付 金	227,000,000	229,472,370	2,472,370	
同 窓 会 準 備 基 金	24,500,000	24,500,000	0	同窓会会計補助金
教育後援会積立金	40,000,000	40,000,000	0	9年度までの積立 年額400万円
学 校 史 発 行 費	25,000,000	0	△25,000,000	(5,000円×5,000部)
雑 収 入	0	1,048,375	1,048,375	銀行利息
合 計	316,500,000	295,020,745	△21,479,255	

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
事 業 費	272,480,000	237,485,761	35,004,219	
(1) 準備会館建設工事費	220,000,000	220,000,000	0	
(2) 準備会館建設設計料	5,150,000	5,152,000	△ 2,000	
(3) 準備会館周辺整備費	1,540,000	1,545,000	△ 5,000	準備会館周辺植栽他
(4) 準備会館備品整備費	3,000,000	2,953,169	46,831	テーブル・椅子・棚・演台等
(5) 学校史発刊費	35,500,000	4,157,456	31,342,544	学校史(上下巻) 6,000部 目で見る100年史 3,000部
(6) 高中の碑建立費	2,500,000	2,523,500	△ 23,500	
(7) 高中・高専ビデオ制作費	3,200,000	0	3,200,000	1,000本
(8) 体育館暖房整備費	1,600,000	1,154,656	445,344	暖房代補助
式 典 費	7,000,000	6,416,738	583,262	
(1) 記念品代		1,501,395		準備会館、紅白顔紙等
(2) 祝賀会費		1,220,518		祝賀会補助、その他
(3) 印刷費		965,895	(6,416,738)	招待状、学校案内、プログラム等
(4) 備品等購入費		1,054,150		看板、フロアシート、トランシーバー、マイク等
(5) 消耗品費		1,674,780		リボン、接待用消耗品代等
運 営 費	8,000,000	5,301,567	2,698,433	
(1) 会議補助費	3,000,000	2,381,808	618,192	基金・常任委員会等の会議費
(2) 通信・印刷費	3,000,000	1,484,964	1,535,036	趣意書、封筒、基金領収書等の印刷 学校史の発送費
(3) 雑費	2,000,000	1,454,795	545,205	振込手数料、基金雑費、事務用品等
予 備 費	29,010,000	600,000	28,410,000	
合 計	316,500,000	249,804,086	66,695,914	

収入差引残高

左記のとおり中間報告いたします。

平成9年12月1日

収入 295,020,745円 支出 249,804,086円 残高 45,216,659円

群馬県立高崎高等学校 創立100周年記念事業実行委員会 会計 荒木 勉

母校だより

●各部の活躍・活動

陸上部

インターハイ出場。念願の全国大会へ今年進出することが出来た。種目は三段跳。我々の先輩が高高陸上部の新しい全国への道を開いた。

我々陸上部は先輩たちの伝統を受け継ぎ、感謝とともに社会に出た時通用する人間性の向上を第一の目標としている。そのため一人一人が精神的に成長しており、総体では過去最高の総合三位。そしてインターハイ。それに続いて、円盤投げでジュニアオリンピック、三段跳、走幅跳、一〇〇Mで国体出場権を獲得し活躍した。

こうした活躍に後押しされて出場した関東高校選抜大会。ここでは円盤投げ二位、棒高跳四位。三年生が引退してから



三段跳び 岸 義真

の初めての大きな県外大会でそれなりの好成績をあげた。来年は第一に精神面、人間性の向上を目標とし、この勢いと意欲を衰えさせることなく、総体では初優勝、そしてやっと開かれた全国の道を閉ざすことなく頑張っていきたいと思っています。OBの方々には是非我々の成長を期待し、応援して頂きたいと思っています。

サッカー部

二十三年ぶりインターハイ出場。待ちに待った「優勝」の二文字が、ついに僕らの胸に飛び込んできました。

ここ十数年間、全国への道を独占していた前商・育英には、多くの学校が戦う前から名前負けし萎縮してきた。だが今年の高崎にはそんな気負いもなく、常に挑戦者として戦ううちに、二度の延長戦惜敗から惜しさと同時に自信も生まれ出した。この自信に、守りぬいて終盤に一点を奪うという必勝パターンが結びつき、県二強連続撃破につながりました。

全国大会では、京都にもかかわらず、OBの方々などがたくさんかけつけてくれて、まるで群馬の地で試合をやっている

のかのような気にさえなりました。初戦こそ少し緊張はありましたが、接戦をものにし、ついにベスト4を駆け強豪国見と戦いました。PK戦の末敗れ、県新記録である四強は遠くかすみましたが、多くのものを得ることができ、とてもよい経験になりました。

創部五十周年の伝統が築いた今年の勝利を続けるものとするよう、全国での経験をもとにそれ以上の結果を残せるよう、来年も頑張っていこうと思います。



平成9年度 全国高等学校総合体育大会（サッカー部・京都府立山城総合運動公園）



前列右から1人目（斎藤）
後列左から2人目（宮岡）
（ソフトテニス部）

ソフトテニス部

僕らの目標としていた関東・インターハイ出場。それを見事に先輩達が成し遂げてくれた。関東は三年連続で個人戦三組の出場、インターハイは二年連続で個人一組だけであったが、県予選二位という成績での出場であった。全国での結果は二回戦敗退と残念なものであったが、この県外大会への連続出場は僕たちに自信を与えてくれ、何とか途切れずに来年へつなげていきたいと思う。

また、十数年ぶりに国体選手も出た。選手六名中二名（写真）が本校の三年生で、激戦であった「なみはや国体」を勝ち抜き、第四位と上位入賞を果たした。

三年生が引退し、新チームになってからの最初の大会である新人戦。昨年の団体戦優勝に続けと狙って臨んだが、前商に善戦空しく敗れ、三位に終わった。

しかし、来年も関東・インターハイ出場を果たせるよう一日一日を大切に全員で努力していきますので、OBの方々の御指導・御声援をよろしくお願いします。

SPORTS

運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

ソフトテニス部

①個人 小瀬・富岡組 3位

下山・大沢組 ベスト16
神戸・高橋組 ベスト16

②個人 小瀬・富岡組 2回戦
下山・大沢組 2回戦
神戸・高橋組 2回戦

③個人 小瀬・富岡組 準優勝

④個人 小瀬・富岡組 2回戦

⑤個人 高橋亮・富岡繁 4位

⑥個人 神戸・根岸組 ベスト16

バスケットボール部

①県総体 優勝

高崎 71 (43 28) 54高商
30 24

③インターハイ予選 第3位

高崎 66 (35 31) 69樹徳
35 34

⑥新人大会 リーグ戦 準優勝

高崎 62 (37 25) 42桐南
16 26

高崎 59 (29 30) 51前商
28 23

高崎 90 (49 41) 94樹徳
51 43

硬式野球部

⑦春季大会 1回戦

⑦第79回全国高等学校野球選手権大会 2回戦

⑦秋季大会 ベスト8

水泳部

①200m個人メドレー 中西正貴 5位

400m個人メドレー 中西正貴 6位

⑥200m平泳ぎ 金井敦史 優勝

400m自由形 野口純幸 3位

50m自由形 中村幸彦 3位

400m個人メドレー 落合啓史 3位

200mリレー 黒崎・金井・林・中村 優勝

400mリレー 黒崎・金井・藤田・中村 2位

400mメドレーリレー 黒崎・中村・林・角田 3位

⑦関東高校県予選

200m個人メドレー 中西正貴 2位

400m個人メドレー 中西正貴 3位

400mリレー 小柏・清水・金井・中西 3位

400mメドレーリレー 清水・黒崎・金井・中西 5位

柔道部

①団体 3位

②団体 予選落ち

③団体 ベスト8

個人 長井祐介 準優勝

⑤個人 小森俊介 3位

60kg級 長井祐介 準優勝

60kg級 久保田隆史 ベスト8

71kg級 松村幸男 ベスト8

71kg級 須藤光昭 ベスト8

⑥団体 ベスト8

⑦学年別大会 1年60kg級 高坂知宏 ベスト8

3年 桜井健司 ベスト8

全日本ジュニア県予選 60kg級 小森俊介 3位

65kg級 長井祐介 優勝

全日本ジュニア関東予選 65kg級 長井祐介 3位

県強化大会 60kg級 小森俊介 優勝

60kg級 久保田隆史 ベスト8

60kg級 高坂知宏 ベスト8

66kg級 須藤光昭 3位

73kg級 松村幸男 準優勝

81kg級 猿谷剛史 3位

空手部

⑥団体組手 2回戦 (対中之条2対3) 個人組手 茂木信宏 3回戦

⑦1・2年生大会 個人組手 茂木信宏 3回戦 (ベスト16)

剣道部

① ベスト16

⑦選手権 個人3位

1年生大会 ベスト8

弓道部

①団体 7位

③団体 決勝リーグ進出 5位

⑥個人 西條泰介 5位

⑦西毛地区大会 優勝

ラグビー部

①県総体 3位

③花園県予選 3位

⑦1年生大会 Bブロック (富高・藤高合同チーム) 優勝

サッカー部

①対前商 (1-2・延長) 3位

③対前商 (1-0) 優勝

④対国見 (1-1・PK3-4) ベスト8

⑥対育英 (0-2・延長) 3位

⑨選手権・対前商 (1-4) 準優勝

陸上部

① 3千mSC 武藤俊史 2位

4百mR 3位

走り高跳び 横田真一 4位

棒高飛び 梅山曉生 3位

走り幅跳び 岸義真 1位

三段跳び 岸義真 1位

横田真一 4位

大塚祐紀 5位

円盤投げ 5位

総合 3位

② 二段跳び 岸義真 1位

⑦ 全日本ジュニアオリンピック 大塚祐紀 9位

円盤投げ 9位

国体 岸義真 10位

三段跳び 石野貴裕 予落

走り幅跳び

テニス部

① 団体 ベスト8

③ 団体 ベスト8

⑥ 個人戦(シングルス) 酒井佳樹 ベスト8

軟式野球部

① 3位

⑥ 2回戦

⑦ 全国高等学校軟式野球選手権大会 1回戦

県予選

卓球部

① 団体 5位

③ 団体

5位

バレー部

① ベスト8

③ ベスト8

⑥ ベスト8

スキー部

① 回戦 宮村恵介 28位

大回戦 森有史 53位

③ 回戦 森有史 36位

大回戦 森有史 50位

⑥ 武蔵杯大会 金田明宏 26位

回戦 金田明宏 25位

大回戦 外斯正章 39位

⑦ 春季大会 金田明宏 48位

回戦

大回戦

山岳部

① 6位

② 功労賞

⑥ 2年の部 田中健照 3位

吉井章人 5位

1年の部 加藤基嗣 1位

⑦ 県民体育大会二部山岳競技大会 (国体予選) 高橋京介 4位

CULTURE

学芸部

第21回全国高校囲碁選手権大会



新聞部

○群馬県高校新聞コンクール上毛新聞社長賞

吹奏楽部

○群馬県吹奏楽コンクール 金賞(県代表)

○西関東吹奏楽コンクール 銅賞

マンドリン部

○第27回群馬県マンドリン フェスティバル 優良賞

囲碁部

○第12回関東地区高等学校囲碁選手権 (ハンディ戦) 7年連続7回目の出場

団体戦 嶋澤 嘉伸 (1年) 2段

千木良泰彦 (2年) 4級

湖上 航 (1年) 4級

8勝4敗 3位

個人戦 松永典之 (2年) 6段

2勝2敗 10位

○第21回全国高校囲碁選手権大会 (オール互戦) 8年連続8回目の出場

松永典之 (3年) 6段

嶋澤嘉伸 (2年) 2段

浅野剛志 (3年) 2級

3回戦敗退 ベスト16

松永典之 (3年) 6段

4回戦敗退 ベスト16

○第21回全国高等学校総合文化祭 (オール互戦) スイス方式

個人戦 松永典之 (3年) 6段

5勝1敗 第4位

団体戦群馬県代表選手

嶋澤嘉伸 (2年) 2段

3勝3敗・26位

将棋部

○第7回関東地区高校文化連盟将棋大会

個人戦 市川 剛 (2年)

○第2回全国高校将棋新人戦大会

個人戦 藤田悟史 (2年)

○第21回全国高校総合文化祭将棋部門

団体戦 藤田悟史 (3年)

市川 剛 (3年)

加藤真一 (3年)

○第10回全国高校将棋竜王戦

個人戦 原沢祐輔 (2年)

2回戦敗退

美術部

○第21回群馬県民芸術祭高校芸術美術展

優良賞 佐藤 喜仁

翠樹祭・高前定期戦

第四十五回翠樹祭

刺激アフレコこの世の中で

人間の生得的かつ必要不可欠な行為は、刺激を求めることである。五感をフル回転させて脳を刺激するのである。それゆえ生命維持の最低限である衣・食・住にまでグルメやファッションを盛り込もうとする。どんな大男でさえも刺激物が取り除かれた空間にあつては隅で小さくなるしかないのだ。

それでは、どんな刺激が良質であると言えるのだろうか。人間は一人ずつ至福の時が違い、一概に刺激の質を論じるのは危険だ。汗を流して働いて喜ぶ人もいれば、参考書を前に日々精進に努めようとする人もいる。昇る朝日に感動する人もいれば、大金はたいて葉漬けになる人もいる。一体どうしてこの人たちを否定できようか。(文化祭の準備をこよなく愛する人も勿論いる。)

ところが、今生きている私と同世代の人の多くは、至福の時がみつからないでいる。情報化の影響か、少子化がさみしいのか、雑誌通りの画一的人間になろうとしている。本来多様だった刺激が一方方向向かい、平均的人間におかしな平等が掲げられた。



今回は翠樹祭にMore Professionalというテーマが出たのは、高高生の警告ではなからうか。自分の専門分野を育てることは、他人との差異を強調することにつながる。今回の翠樹祭を通じて、多くの高高生そして発表を見てくださった大勢の人に、各発表ごとに何らかの刺激が与えられたと思う。それに対する感動も批判も皆、生来からのものであり、翠樹祭は人間的に成功したはずだ。

(第四十五回翠樹祭実行委員長 神田 大輔)

第五十一回定期戦

「大勝利……だが」

今年俺達は勝利した。前哨戦である、一般水泳、部対抗野球などで勝ち越し、リードしたまま本戦を迎えることができた。水泳は実に七年ぶりの勝利であった。

本戦では、駅伝での快勝を皮切りに、大躍進である、一年生の綱の勝利。応援の人も、飛び上がって喜んだことだろう。そして部対抗の大健闘。途中、雨が降ってきて、部対抗のテニス、弓道が中止になるも、一般対抗は一種目も中止されずに行われた。結果、見事百点以上とつての大勝利であった。

振り返ってみると、得点表を見てもうらやまわかれると思うが、部対抗は凄かった。60―24と去年の均衡を打ち破り、圧倒してくれた。今後も運動部には期待が持てそうである。

ところが問題点も残る。定期戦は、全校でやるものだから、一般対抗で、もっと頑張った方がよいのではないか。その中でも一年生は、本当によくやったと思う。24―6と、前高の四倍もとつての勝利だった。これは練習の賜物と言う以外にない。二、三年生は残念にもダブルスコアでの敗北となってしまった。もし、今年も部対抗が同点だったとしたらと考えると……(一点差で負け……ガーン)これはやばいと思うのは僕だけではない。

「もつと元気を出せ!」と僕はみんなに言いたい。クラスに回ったり、撃滅をやるような時にも、少し反応がよくなかったように思う。僕は部活や委

員会を引退して、そのようなものがない学校がいかにつまらないかを実感した。みんなも、まだ時間はあるだろうから、学校をつまらんと思っている人は特に、これからの行事等に積極的に参加してほしい。そうすれば学校もより楽しくなるでしょう。

(第五十一回高前定期戦 実行委員長 田嶋 洋平)



第51回高前定期戦 得点表									
高	高	前	高	高	前	高	高	前	高
			水	泳	6	3			
			網	引	3	6			
			ソフト	ボール	3	6			
			駅	伝	7.5	1.5			
			玉	入	3	6			
6	0		陸上	競	6	3			
6	0		バス	ケ	4	5			
6	0		バレー	ボール	2	7			
6	0		ソフト	テ	6	3			
0	6		卓	球	4	5			
6	0		硬式	野					
0	6		軟式	野					
6	0		剣	道					
6	0		柔	道					
0	6		空	手					
3	中止	3	弓	道					
3	中止	3	テ	ニ					
6	0		サ	ッ					
6	0		ラ	グ					
60	24		小	計	44.5	45.5			
高	高	104.5	総	合	前	高	69.5		

最近の進学状況について

平成九年の大学入試は、現役合格率86.2%で、東京大学二十名(現役十五)、東北大学三十名(現役二十八)、一橋大学八名(現役七)、群馬大学医学部八名(現役八)、慶応大学七十五名(現役五十)、早稲田大学六十三名(現役四十四)

等に代表されるように、現役生の頑張りが目立ちました。また、質・量の両面から充実した結果が出たことを心から喜びたいと思います。

この結果は、生徒が一日四〜六時間に及ぶ家庭での勉強時間とそれを支えた

家族の協力、また、六十五分授業の導入、授業の充実、補習等、学校挙げて取り組んだ成果であると思っています。これからも二十一世紀を担う人材の育成に全職員で取り組みたいと思っています。

(進路指導主事 船戸秀道)

人事異動

転任者

本多 嘉実 教頭→前橋清陵高校 校長

小笠原祐治 教諭→

県教委学校人事課管理主事

斎藤 勇夫 教諭→松井田高校

木暮 弘 教諭→市立前橋高校

熊谷 章 教諭→前橋工業高校

関 弘直 教諭→榛名高校

佐藤 正子 養護教諭→高崎高等養護学校

堀口ほづみ 事務主事→高崎女子高校

新任者

井本 嘉宣 教頭→高崎高校

宮崎 秀明 教諭(国語)→高崎北高校

橋本 晃一 教諭(数学)→前橋商業高校

柴崎 浩明 教諭(英語)→渋川女子高校

若山 康 教諭(世史)→前橋女子高校

小野 陽子 養護教諭→みやま養護学校

武藤 真弓 事務主事→西邑楽高校

※は通信制

進路状況 (全日制) 内は現役

大学	年次	7年	8年	9年	大学	年次	7年	8年	9年
北 大		7(6)	10(10)	6(3)	早 大		52(36)	47(42)	63(44)
東 北 大		30(23)	23(19)	30(28)	慶 応 大		53(38)	52(44)	75(56)
東 京 大		18(12)	17(15)	20(15)	中 央 大		62(51)	42(34)	56(37)
一 橋 大		4(3)	2(2)	8(7)	明 治 大		60(52)	64(54)	53(38)
東 工 大		7(4)	6(6)	6(4)	日 本 大		113(103)	95(88)	87(70)
千 葉 大		18(14)	11(11)	18(17)	上 智 大		9(0)	7(6)	12(9)
京 都 大		6(5)	6(4)	5(3)	法 政 大		33(24)	22(20)	42(32)
新 潟 大		11(8)	18(16)	5(4)	立 教 大		5(2)	14(12)	8(5)
筑 波 大		7(7)	4(2)	5(4)	東京電機大		3(2)	4(4)	7(6)
金 沢 大		9(8)	5(3)	8(6)	東京理大		97(67)	102(85)	99(77)
東 外 大		3(3)	4(4)	1(1)	芝 浦 工 大		10(7)	21(19)	16(14)
群 馬 大		41(32)	39(33)	34(31)	成 蹊 大		2(1)	1(0)	5(2)
横 国 大		17(15)	7(5)	11(10)	学習院大		4(2)	4(3)	14(8)
静 岡 大		3(2)	2(2)	0(0)	青山学院大		10(7)	24(21)	28(26)
名古屋大		3(3)	1(0)	2(2)	武 蔵 大		5(0)	1(0)	1(0)
埼 玉 大		11(8)	6(6)	8(8)	明治学院大		16(12)	5(5)	5(3)
信 州 大		2(1)	3(3)	3(3)	同志社大		5(2)	1(1)	22(20)
横浜市大		6(4)	1(1)	0(0)	立 命 館 大		30(22)	18(12)	52(46)
高 経 大		31(27)	19(15)	19(16)					

種別合計 (全日制) 内は現役

	7年	8年	9年
A 国 立	222(169)	190(158)	191(163)
B 公 立	50(41)	25(18)	28(20)
C 私 立	767(578)	693(574)	799(603)
A + B + C	1,039(788)	908(750)	1,018(786)
D 短 大	0(0)	0(0)	0(0)
総 計 (延 数)	1,039(788)	908(750)	1,018(786)
卒 業 者 数	401	397	375
現 役 進 学 者 数	318	270	275
現役合格率 (受験者数 合格者数)×100	88.6 %	83.2 %	86.2%

平成8年度 高同窓会 経常決算報告

平成8年度 経常会計			
収入の部 (平成8年1月1日～平成8年度12月31日)			
費目	平成8年度予算	平成8年度実収入	備考
前年度からの繰越金	792,613	792,613	
入会金	3,000,000	3,164,000	全日制360人、通信制16人
維持会費	7,000,000	6,471,900	
利息	6,387	10,450	
雑収入	15,000	14,902	ネクタイピン代等
合計	10,814,000	10,453,865	

支出の部			
費目	平成8年度予算	平成8年度実支出	備考
会議費	1,300,000	1,330,073	会議補助等
祝賀費	500,000	778,913	ネクタイピン代等
饗別費	300,000	270,000	平成8年転退職員へ
慶弔費	100,000	122,850	葬儀花輪代等
通信印刷費	500,000	621,788	維持会費納入礼状代等
旅費	150,000	66,000	京浜同窓会出席者旅費等
会報発送費	1,700,000	1,479,090	同窓会報郵送費
会報作成費	1,600,000	1,491,440	同窓会報制作料
事務費	600,000	569,847	人件費、事務用品代等
同窓会長賞費	100,000	43,260	ガラス盾
補助費	600,000	600,000	図書館30万、翠園体育会30万
100周年準備費	3,000,000	3,000,000	100周年準備特別会計へ
雑費	50,000	40,000	お礼等
予備費	314,000	0	
合計	10,814,000	10,413,261	

平成9年度 同窓会経常会計予算				
収入の部 (平成9年1月1日～平成9年度12月31日)				
費目	平成9年度予算	平成8年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	40,604	792,613	△ 752,009	
入会金	2,500,000	3,000,000	△ 500,000	新入生40人減
維持会費	7,000,000	7,000,000	0	
利息	2,396	6,387	△ 3,991	
雑収入	15,000	15,000	0	
合計	9,558,000	10,814,000	△ 1,256,000	

支出の部				
費目	平成9年度予算	平成8年度予算	増△減	備考
会議費	1,100,000	1,300,000	△ 200,000	
祝賀費	500,000	500,000	0	
饗別費	300,000	300,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	
通信印刷費	500,000	500,000	0	
旅費	100,000	150,000	△ 50,000	
会報発送費	1,700,000	1,700,000	0	
会報作成費	1,600,000	1,600,000	0	
事務費	600,000	600,000	0	
同窓会長賞費	150,000	100,000	50,000	
補助費	600,000	600,000	0	
100周年準備費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	258,000	314,000	△ 56,000	
合計	9,558,000	10,814,000	△ 1,256,000	

差引残高 40,604円

次年度への繰り越し 40,604円

経常会計について上記のとおり報告いたします。

群馬県立高崎高等学校同窓会

会計 荒木 勉 飯野良二 田口哲男

監査の結果、上記報告に誤りのないことを認めます。

平成9年1月18日

群馬県立高崎高等学校同窓会

監査 石井敬之助 安藤震太郎

群書文庫 BOOK BOOK BOOK

●著書

天地有情 中曾根康弘 (35回)

天国への風船門 田島 恵三 (43回)

木造 黒川 宗輔 (38回)

万葉を哲学する 吉永 哲郎 (54回)

おはなし高崎人物伝

群馬トヨタ50年のあゆみ 横田 英一 (50回)

Agora 1月号 大澤 清 (23回)

ステイブル 14号・15号・16,17合併号 田端 広英 (87回)

新編日本古典文学全集56 太平記 長谷川 端 (51回)

矯正に強くなる本 中島榮一郎 (62回)

もう歯並びを悩まない

新臨床矯正マニュアル

Introduction to bioprogressive therapy

臨床矯正マニュアル I・II・III・IV

群書文庫創立10周年記念誌

安齋する日本安保政策コミュニティ 神保 謙 (91回)

歌集借冬集 原 一雄 (29回)

断片的自画像 田中 健夫 (40回)

六羊会 清水 貞保 (30回)

お台所で見つけた人の道 佐藤 達全 (65回)

楽・自然・文化 第四号

教育・保育・施設実習の手引き

芥民要術

モーグル・テクニク・バイブル 角谷 俊人 (72回)

商店界イベント入門 熊野 卓司 (66回)

東京・銀座ソニースクエアイベント物語

広告界・見・聞・読

CM界・名コピー・珍事件

●著者

第96回高同窓会新年総会のご案内

高崎高校同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。明年の新年総会は、私達67期が担当させていただきますことになりました。

今年、私達の母校は一〇〇周年という歴史の大きな節目を迎え、記念行事も盛大にとりおこなわれ、参加させていただいた私どもも、伝統を担う一員としての責任の重みを感じました。

来年は、新たな世紀の第一歩を踏み出す年です。先輩よりお預かりした「キー」をしっかりと次世代に渡したいと思っております。

現在、同窓会本部をはじめ、先輩方の御指導をいただき、楽しく、にぎやかな新年会になりますよう準備をすすめております。是非皆様お誘い合せのうえ、御出席下さいますようお願い申し上げます。

期日 平成十年一月二十四日(土)
時間 午後三時より
場所 高崎ビューホテル
会費 五千円
(当番期67回代表 仙田 健二)

会員名簿について

本年五月一日に、新しい同窓会会員名簿が刊行されました。御住所や勤務先の異動など、変更がございましたら、郵便でご連絡下さい。

なお、名簿に残部がありますので、申し込まれる方がございましたら、こちらも郵便で行うようお願い申し上げます。

宛先 〒370 高崎市八千代町二丁目一
高崎高校 同窓会名簿刊行委員会
定価 四、五〇〇円(送料込み)

編集後記

同窓の皆様の多大なる御協力をいただき、会報第31号が創立百周年の記念すべき年に発行できましたことをお礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せ下さいましたことに厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。(本部幹事会)

維持会費の納入について

同窓会は会員各位の納入して下さる二千円の会費で運営されています。同封の振込用紙(加入者名「群馬県立高崎高等学校同窓会」)で納入して下さい。よろしくお願い申し上げます。